

第14回

全日本リレーオリエンテーリング選手権大会

実施報告書

開催日：2005年12月18日(日)

開催地：岡山県笠岡市白石島

会場：笠岡市 B&G 海洋センター

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| ・開会式・テクニカルミーティング | 12月17日(土) (16:00~18:00) |
| ・モデルイベント | 12月17日(土) (9:30~16:00) |
| ・併設トレイル・オリエンテーリング大会 | 12月17日(土) (11:00~14:40) |
| ・併設島内88箇所巡りお遍路オリエンテーリング大会 | 12月19日(月) (9:20~13:00) |

主催：(社)日本オリエンテーリング協会

主管：岡山県オリエンテーリング協会

後援：文部科学省、(財)日本体育協会、岡山県、岡山県教育委員会、笠岡市、笠岡市教育委員会、岡山県レクリエーション協会、朝日新聞社、山陽新聞社、NHK岡山放送局、山陽放送

協賛：(社)岡山県観光連盟、(財)岡山県スポーツ振興財団、(財)ワコースポーツ・文化振興財団、白石島観光協会、森永乳業株式会社、三菱自動車工業株式会社

協力：三洋汽船株式会社

岡山県オリエンテーリング協会

会長 千田博通

事務局所在 〒710-0131 倉敷市天城台3丁目1番8号

岡山県オリエンテーリング協会 理事長 佐藤旭一

Tel/Fax 086-428-3732

E-Mail satokyoku@nifty.com

(2006年1月10日作成)

1. 大会参加者

(1). 全日本リレー大会 (12月18日)

- ・選手権クラス 8クラス 119チーム (357名)
- ・一般クラス 4クラス 14チーム (42名)
- ・特別併設クラス 4クラス 7チーム (36名) 計435名

(2). 併設トレイル大会 (12月17日)

- ・Aクラス 50名
- ・Nクラス 5名

(3). 併設島内88箇所巡りお遍路大会 (12月19日)

- ・男子の部 15名
- ・女子の部 11名

(4). モデルイベント (12月17日)

- ・124名

(5). 運営スタッフ

- ・12月17日 40名
- ・12月18日 46名
- ・12月19日 15名

(6). 所見

リレー大会の当初計画最低目標400名は超え、他の併設イベントもまずまずの参加者であった。また、リレー大会では、北は北海道から西は愛媛、山口県までの幅広い28都道府県からの参加を得、トレイル大会には長崎県からの参加もあった。

これは、この数年関東地区で行われた規模に比べ、参加者数では若干少ないものの参加都道府県数では遜色ないものである。

なお、最近参加していなかった西日本地区の県からの参加もあり、岡山開催の意義は十分あったものと考ええる。

2. 結果

(1). 競技運営面

- ・全ての競技は、トラブルなくスムーズに実施され良好であった。
競技に関する調査、提訴の届けも全くなかった。
- ・参加者の評判は非常に良く、非日常的な島での競技と瀬戸内海の景色、郷土料理を堪能してもらえたようである。
さらに、島での温かいもてなしも大変よい印象を与えている。
また、会場での温かい田舎どんぶり、笠岡諸島の特産品販売等は好評であった。
- ・開会式開催の17日は、強風のため、臨時船、定期船に昼間の欠航が相次ぎ、開会式出席予定の来賓、参加者が来島断念を余儀なくされるなどのアクシデントがあったが、幸い夕方には回復したため、運営に支障をきたす事態にはならなかった。

(2). 準備面

- ・少ない人数での事前準備であったが、マスタスケジュールに基づく早目の遂行を基本とし、徹底したメーリングリスト活用による情報の共有化とダブルチェックを図ったため、比較的余裕と安心を持って本番に臨むことが出来た。
- ・県協会の定年リタイヤ組が核とはなったが、地元笠岡海洋センターの職員、笠岡市海援隊等の関係者の皆様に多大なるご協力を得た。

(3). 収支決算

- ・仮決算状態であるが、ほぼ当初計画に近い収支レベルで諸準備の遂行調達が出来た。
最終的には今少し事後処理を終える必要があるが、ごくわずかなマイナスで締められる見通しである。
- ・地図調査諸費用が当初計画よりかなりオーバーしたが、全島を網羅したA3版の見事な地図は、今後のオリエンテーリング活動への寄与のみならず、島の観光にも活用される貴重な財産となることは間違いなく、経費オーバーを補って余りある価値があるものと判断する。
- ・前述経費オーバー、(社)日本オリエンテーリング協会からの助成不備判明等による不足については、運営スタッフの徹底したボランティアの取り組みスタンスによって乗り切った。

3. 総括

(1). 良かったこと

- ・「一度は全国からゲストを招いて岡山の地で走ってもらいたい。そしてその資産を利用して、今後の活動につなげたいと考えるなら、その夢を諦めるのはもったいない。」と全面的に支援いただいた長野県協会の木村佳司さん。
また、「こんな場所でも良い大会が開催できるという可能性を拡げ、OL界の理解を深めさせることが自分の基本スタンスである。」と見事な地図を作成していただいたマッパーの山川克則さん。そして、初期段階からさまざまな活動に全面的に協力いただいた笠岡海洋センター職員の方たち、さらに資金、人的面でサポートしていただいた、県、笠岡市、他多くの関係者のご支援の賜物であり、技術スキル、人的面で不足する県協会能力のなかでスムーズに実現できたのは、これに尽きると考える。
- ・上記に加え、計算センタースペシャリストの的場洋輔さんを含めた遠隔地メンバーの方たちを交えた事前準備、運営の意思統一等がほとんど問題なくスムーズに進められたのは、実行委員会メンバーのメーリングリスト活用による情報の共有化の力が大である。
このメーリングリストによるネット上での随時の会議が、全員参加の準備実行委員会は初回の1回のみ、あと少人数での部分的なすり合わせを数回実施したのみでの準備を可能にした。
直接対話でないメールゆえの意思疎通のマイナス面も一部散見したが、今後の課題であろう。
- ・同様に web サイト大会ホームページ開設と、オリエンティアメーリングリストをうまく活用しての広報、従来メディアの新聞、テレビ等での紹介も雰囲気盛り上げに大きな効果があった。
- ・開催場所については、地元の方々にこれほどオリエンテーリングに対する理解と協力を得て、受け入れられた大会はないといえるほど素晴らしいものであった。
今後、さらに地元と一緒に、岡山県におけるオリエンテーリングのメッカといわれるようにしていきたいものである。
今回のコースについては、一部クラスについて若干きつすぎたようであるが、トレインとしては、通常大会開催のコース設定にも十分対応できるレベルにあると考えられる。
- ・素晴らしいOマップとともに、古くから地元の人々に大切に守られてきた、由緒ある四国 88 箇所ミニ霊場を特定した地図も同時に整備でき、今後の活用が期待される。
- ・リレー大会において、特別併設クラスとして初級者対象のクラスを設けたが、県内初級者クラスの参加はもとより、愛知、広島からの小学生参加もあり試みとしては成功したものと考えられる。
中でも、地元白石中学生のリレー全員参加は特筆すべきであり、応援を含め、地元を巻き込んだ大会として、今後の大会開催のあり方に一石を投じられたものと考えられる。
- ・競技中の会場内、および表彰式におけるタイミングを捉えた効果的な音楽演出は素晴らしく、これも他の大会で見られなかったものである。
- ・大会としては3日間イベントであったが、「スペシャリストの協力を得る」、「地元の理解と協力を得て一緒に取り組む」、合わせ「行政、メディア関係の支援も得る」やり方を基本に行えば、弱小の県協会でも、全国オリエンティアの皆さんに満足してもらえる大会が開催可能であることが証明できた。組織にとって、これは今後の活動につながる最も重要なことと考える。

(2). 悪かったこと

- ・ダブルチェック不足のため、誤記見逃し等若干の課題は残ったが、準備運営面で大きく反省すべき項目はなかったと考える。
- ・季節外れの異常気象による強風のため、昼間に欠航が相次ぎ参加者に不便をかけたが、リスク想定範囲内で済んだ。なお、臨時船運航については、状況により時刻変更することもあるので、時間的余裕を持って臨んでもらうようプログラムで投げかけておくべきだったかもしれない。
- ・日本オリエンテーリング協会(JOA)事務局交代の余波を受け、例年適用されていたスポーツ振興基金助成事業が、適用されないことが大会直前に判明し、JOAからの物品調達に支障が生じたが、関係スタッフの労力投入でなんとか乗り切った。

4. 今後の課題

- ・メディア等でもかなり取り上げてもらい実施できたオリエンテーリングに対する県民への広報を有効に生かし、継続した活動により更なる普及発展につなぐことが肝要である。
- ・大会開催に向け結集できつつある県協会組織を一層結集し、持続して活力を持った取り組みにつなぐことが必要である。数年後に、またビッグ大会開催への動きが出てくる可能性が考えられる。

5. 日本オリエンテーリング協会への申し送り事項(提起事項)

(1). ルールについて

・選手権クラス表彰(従来どおり)

ME、WE 優勝チームを日本選手権者とし、上位 6 位までを表彰。他のクラス優勝チームをそれぞれのクラスの選手権者とし、上位 3 位までを表彰。

選手権クラス表彰(提案内容)

ME、WE 優勝チーム(会員)を日本選手権者とし、上位 6 会員までを表彰。(6 チームではない)他のクラス優勝チームをそれぞれのクラスの選手権者とし、上位 3 会員までを表彰。(3 チームではない)

つまり同じ会員から複数チームが上位に入った場合は、最上位チームのみを表彰対象とする。

これは例えば東京都 ME が上位 6 チームを独占してしまうという事態を避けるためであり、あくまでも都道府県対抗戦が趣旨の大会であるのでこのようにすべきと思う。

・一般クラス申し込みの競技者一時登録について

走順変更にて事前登録者でなくても出場可能となるので、事前申込時は一時登録は必要とせず、最終走順メンバーに未登録者がいる場合のみ当日一時登録をすればよいことにする。

これは、参加者へのCS 向上として好ましいと考える。

(2). 要項、プログラム発送等

・選手権クラス要項は各会員宛のみ、一般クラスは不特定配布となっているが、一本化して申し込み用紙のみ分けるほうが参加者、後援団体、マスコミ等にとって理解しやすい。

・選手権クラスプログラムの配布について、各会員連絡先宛にまとめて送っているが、各人に渡るのが遅いので直接個人宛に送って欲しい旨の要望が来たりした。これは走順確定と送付費用の問題がからむので単純な実施は困難であるが、何か良い方法はないだろうか。

6. 添付資料

- ・成績表
- ・収支決算書(仮)
- ・新聞報道記事・参加者感想等
- ・準備マスタスケジュール
- ・(大会要項・大会プログラム)

7. その他(参考)

(1). 大会開催までの経緯

・全日本リレー選手権大会は、毎年国体開催県が持ち回りで開催することが基本になっており、平成 17 年晴れの国おこやま国体の開催に伴い、かねてから予定されていたことであったが、弱体な当協会で果たして実施可能か難題であり、結論が先延ばしされていた。

・そんな中、実現に向けあらゆる面で積極的に支援していただいたのが長野県協会の木村さんであり、それに呼応して地図作成を担当していただいたのがプロマッパーの山川さんである。

これによって、実現への見通しが見えてきたことから組織として正式に開催決定するに至った。

・一度は開催断念まで決心したが、さまざまな皆様の多大なご支援のもと開催することが出来、かつ成功裏に終わられたことに無上の喜びを感じる。

(2). 大会開催までの主要日程

- ・2004年10月30日 理事会にて開催を決定
- ・12月11日 第1回大会準備実行委員会開催
- ・2005年3月5日～4月24日 第1次地図調査作成
- ・11月17日～24日 第2次地図調査作成
- ・8月31日 大会要項発行
- ・12月5日 大会プログラム発行

(3). 過去開催のビッグ大会

- ・昭和55年11月23日第7回西日本大会(久米南町)
- ・平成7年12月3日 第18回西日本大会(新見市)

以上